KBS京都賞

あいさつで無くすいじめ

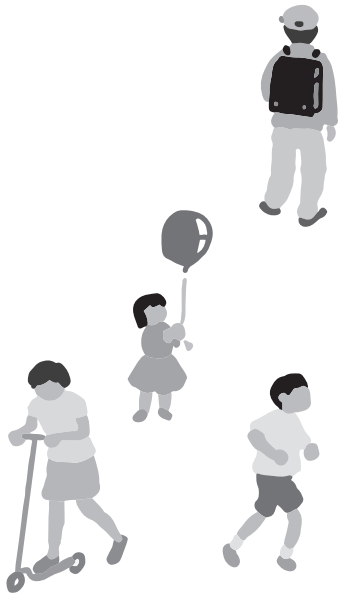
京都府・京都市立九条弘道小学校　六年　北村（きたむら） 太稀（たいき）

ぼくはいじめがないクラスで六年間過ごしていてとても楽しいのでいじめが社会からなくなればいいと思います。いじめがあるクラスについてインターネットで調べたときに数が少なくクラス替えがない学校とありました。ぼくのクラスは一年生から六年生まで一クラスだったので、転校する人もいましたが、ほとんど同じ人と毎日を過ごしてきました。でも、ぼくのクラスはいじめがありません。なぜかと考えた時に、みんなが仲良かったからです。最初からみんなが仲が良かったわけではないですが、仲良くなるためにクラスのみんなで遊ぶ時間を作る「遊び係」を考えて、二週間に一回はクラスのみんなで遊ぶ時間をつくりました。大体の男子はサッカーが好きなのでサッカーをしたい人が多かったのですが女子はサッカーをしたくない人が多かったので、みんなで遊べる鬼ごっこをすることが多かったです。みんなで遊ぶと言い合いすることもありましたが、先生が間に入ってくれて仲直りができました。そういう出来事のつみかさねがあり、みんなとの仲が深まって自然といじめの無いクラスができたのだと思います。

いじめがあるクラスはみんなとの関わりがあまり無いクラスだと思います。孤立している人がいるといじめの対象になりやすいと思うので、一人ぼっちの人がいたら話しかけるようにしたらいいと思います。

いじめる人の事についても調べてみました。「愛されたい、かまってほしい」、「自分はできない子など自己肯定感が低い」、「気分の浮き沈みが大きいなど情緒不安定」な人がいじめをするとありました。親からの愛情不足でそのようになるとかいてあったので、親は子どもにできるだけ多く関わり、いっぱいほめてあげればいいと思います。親が忙しくて関わってもらえない人は、先生がたくさん関わることで、いじめる人の心を満たしてあげることができ、いじめにまでつながらないと思います。

人と人との関わりは「社会を明るくする運動」にとても重要なことです。ぼくは学校や習いごとの行き帰りに、近所の知らない人にあいさつをする運動をしています。何気なく始めたことですが、これも人と人との関わりを作り「社会を明るくする運動」だと考えます。一日二〇人ほどの人にあいさつをしていますが、返事をしてくれる人は少ないです。近所のおじさんにあいさつをした時に、返事が無かったので聞こえていないのかなと思い、大きいこえであいさつしたら「うるさい」と返された事があります。とても悲しい気持ちになりました。近所のおじさんは人と関わることがいやなのかもしれません。この経験から、「社会を明るくする運動」は、みんなを明るくすることはむずかしいと思いました。しかし、あいさつをされたらあいさつを返す。基本的なことですができていない人がいるのでみんなが意識をして努力をすれば、あいさつから人と人との関わりが増えて、社会を明るくすることは実現できると考えるので、ぼくはこの運動を続けていきたいです。



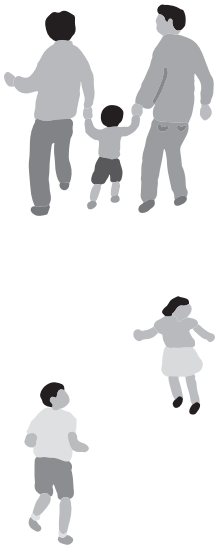
KBS京都賞

1つの勇気が教えてくれたこと

京都府・八幡市立男山第二中学校　三年　福西（ふくにし）　愛璃（あいり）

「大丈夫ですか?」

その一言がとても大切だと言うことに初めて気付かされた日でした。

真夏の昼の時間帯だったため外はすごく暑い日でした。その日私は一人の友達と勉強をするために集合場所までむかっている最中でした。友達と電話をしながら集合場所であるスーパーまで歩いている時、信号を待っているおじいちゃんがいました。そのおじいちゃんは電柱にしがみついていたので「どうしたんだろう」と思って声をかけようか迷ったのですが前にニュースでみた『高齢者の人に声をかけたら「高齢者を馬鹿にするな」「わたしが高齢者に見えんのか」など罵声を浴びせられた』というのをテレビで見かけたことがあり、声をかけて怒られたらどうしようと考え、怖くて声をかけれずに通りすぎて友達と合流しました。合流したあと友達にそのおじいちゃんの話をしながらスーパーでアイスを選んでいた時にすれちがった人が「暑いね」、「ねー、熱中症になりそう」と会話していてそれを聞いた私たち2人はおじいちゃんが心配になり何も買わずに店を出て急いでおじいちゃんのところに向かいました。店を出たあとも「本当に声をかけるのか」という不安があったけど最初に見た時よりおじいちゃんがフラついていたので私たちは勇気を出して「大丈夫ですか?」と声をかけました。するとおじいちゃんは「うん、大丈夫大丈夫」と言いました。だけど私たちはこの人は大丈夫じゃないなと感じたのですが初めてのことで私たちはどうするべきなのか分からず困惑していたら近くに掃除ボランティアの方がいたので声をかけました。おじいちゃんの今の状態を説明していたらすぐに駆けつけてくれてボランティアの方がおじいちゃんに付き添ってくれました。その間に私は救急車を呼ぼうとしましたが救急車を呼ぶことさえ初めてなのでなんて言えばいいかすら分からなかったけどボランティアの方が優しくおしえてくれたので、安心して救急車に電話することができました。救急隊員の方が電話の最後に「直ぐに向かいます。安心してまっててください」と言っていて不安と緊張が少し和らぎました。救急隊員がくると分かっていてもおじいちゃんは不安だろうなと思ったので私たちは、「大丈夫ですよ」「もうすぐ助けきますからね」と声をかけていました。数分後、救急車が到着し、救急隊員の方に「本当にありがとう」と言われ、あの時勇気をだしてよかったと心から思えました。その後おじいちゃんが救急車にのる前、手を振ってくれてとてもうれしかったです。

私はこの日を通して少しの勇気が命を救うこともあるんだなと感じました。助け合いがすごく大切だと思うし、他人事と思わずに自分と異なる意見や立場の人がいても互いに思いやり合う気持ちがないとよりよい社会にはならないと思いました。社会にはいろんな理由で苦しんでいる人、困っている人がいるのは事実で簡単に変えられないことだけどたったひとつの小さな勇気や言葉だけで将来おこる犯罪の一つ、また一つをなくしていけると思いました。自分の少しの勇気を振り絞るだけで貴方もきっと誰かの救いになるはずです。